



ADVANTEST[®]

2020年度（2021年3月期） 決算説明会

2021年4月27日
株式会社アドバンテスト

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ご注意

会計基準について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている実績や見通し数値は、国際会計基準（IFRS）に基づいて作成しています。

将来の事象に係る記述に関する注意

- 本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、将来の事象についての、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれております。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているものまたは暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

本資料の利用について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、各国の著作権法、特許法、商標法、意匠法等の知的財産権法その他の法律及び各種条約で保護されています。事前に当社の文書による承諾を得ない限り、法律によって明示的に認められる範囲を超えて、これらの情報を使用（改変、複製、転用等）することを禁止します。



```
...mirror_object = ...
operation == "MIRROR_X":
mirror_mod.use_x = True
mirror_mod.use_y = False
mirror_mod.use_z = False
operation == "MIRROR_Y":
mirror_mod.use_x = False
mirror_mod.use_y = True
mirror_mod.use_z = False
operation == "MIRROR_Z":
mirror_mod.use_x = False
mirror_mod.use_y = False
mirror_mod.use_z = True

selection at the end -add
obj.select= 1
obj.select= 1
context.scene.objects.active
obj.select= 0
```

2020年度決算報告

取締役 兼 常務執行役員 藤田 敦司

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ADVANTEST[®]

FY20業績ハイライト

- FY20ははじめから夏場にかけて、新型コロナウイルス感染症拡大および米中対立といった外部要因によりテスタ市場の不透明感が高まる
- しかし、WFH（ワーク・フロム・ホーム）関連需要や5Gスマートフォンメーカー間の競争などにより、下期は顧客の投資意欲が急回復
- 結果、FY20通期で過去最高の受注高・売上高・当期利益を達成
- 当社として初めて通期売上高3,000億円を超過。記念配当10円を加えた期末配当80円へ、配当予想を修正
- 3カ年中期経営計画の経営指標も目標を大きく上回り全て達成

○ 2020年度業績ハイライト

- 前例のない事業環境の中で、当社ビジネスを継続して支えていただいている取引先様各位、関係各位、従業員各位に深謝いたします。
- コロナウイルスは、我々の生活と行動様式に困難をもたらしました。米中対立は、上半期において、当社のテスタ事業に大きな影響を与えました。
- 一方で、2020年度下期に入った後は、リモートワーク拡大などを背景としたWFH（ワーク・フロム・ホーム）に関連した需要が持続したことに加えて、5Gスマートフォンメーカー間の競争などにより試験装置需要が拡大しました。
- その結果、2020年度は受注高、売上高、当期利益において、過去最高となる実績を収めることができました。
- また、2020年度は、当社として初めての3,000億円を超える売上高達成となりました。それを受けて、記念配当10円を加えた期末配当80円へ配当予想を修正します。
- 加えて3カ年中期経営計画の経営指標も達成することができました。

FY20業績概要

	(億円)				
	FY19 実績	1月時点 予想	FY20 実績	前年度比	
				増減額	増減率
受注高	2,878	3,100	3,306	+428	+14.9%
売上高	2,759	3,050	3,128	+369	+13.4%
営業利益	587	670	707	+120	+20.5%
営業利益率	21.3%	22.0%	22.6%	+1.3pts	
税引前利益	586	640	696	+110	+18.9%
当期利益	535	615	698	+163	+30.4%
当期利益率	19.4%	20.2%	22.3%	+2.9pts	
受注残	910	960	1,088	+178	+19.6%
為替レート	1米ドル	109円	106円	106円	3円 円高
	1ユーロ	121円	122円	123円	2円 円安
1株当たり配当額 (年間)	82円	95円	118円*1	+36円*1	
自己株式取得額	-	-	131	+131	
総還元性向*2	30%	-	52%	+22%	

* 1: FY20の期末配当は2021年5月21日開催の取締役会において正式決定する予定です

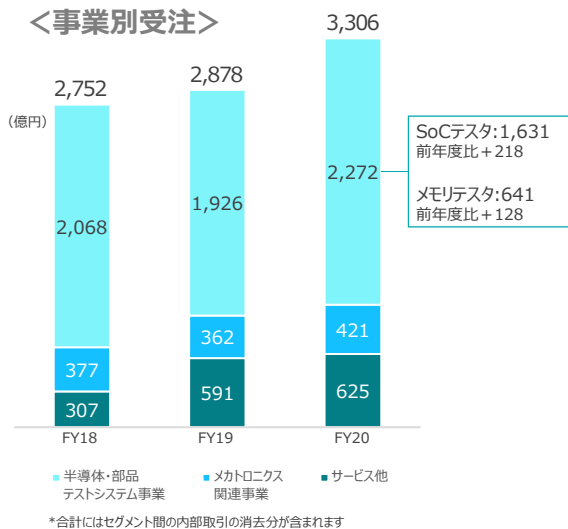
* 2: 総還元性向 = (配当総額 + 自己株式取得額) ÷ 当期利益

○ 2020年度業績概要

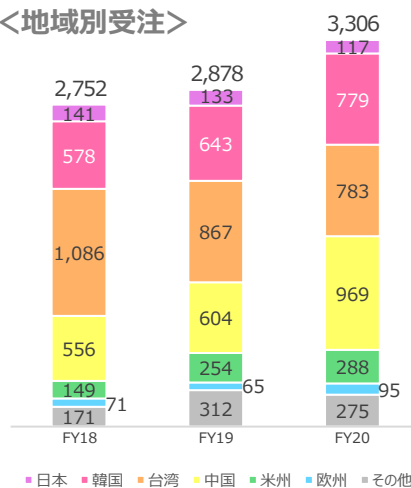
- 受注高 前年度比 14.9%増 3,306億円
- 売上高 前年度比 13.4%増 3,128億円
- 営業利益 前年度比 20.5%増 707億円
- 当期利益 前年度比 30.4%増 698億円
- 受注の伸びにより、受注残は前年度比 178億円増加の 1,088億円
- 税金費用には将来の税金費用の減税効果を見込んだ繰延税金資産の計上影響およそ100億円が含まれており、当期利益が税引前利益より大きくなりました。
- 期末配当予想は 記念配当10円を加えて80円、中間配当実績 38円と合わせ、年間配当予想は 118円とします。自己株式取得と配当を合わせた総還元性向は 52%となります。
- ROEは 27.3%でした。

FY20受注実績 年度比較

<事業別受注>



<地域別受注>

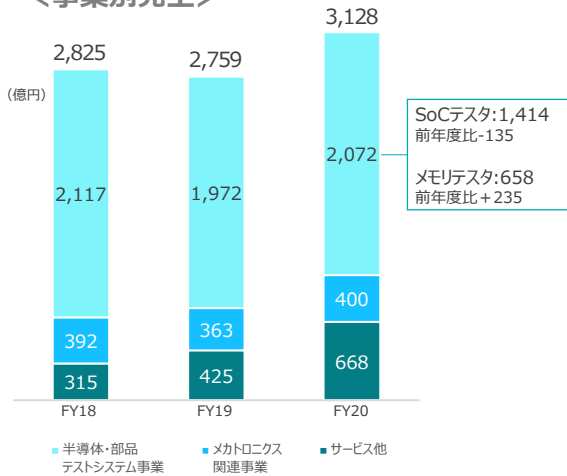


○ 2020年度の受注高実績

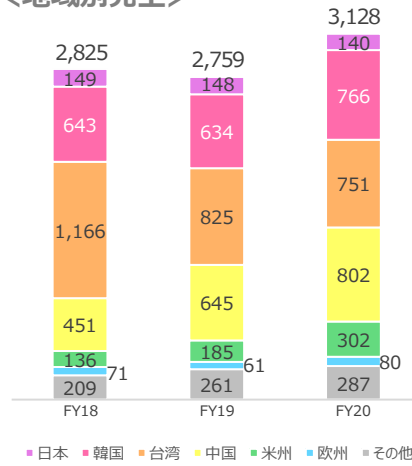
- 事業別、地域別の年度受注実績はご覧の通りです。
- 2020年度はリモートワークの拡大等を背景に、ハイ・パフォーマンス・コンピューティング(HPC)向けで堅調な需要環境が続きました。
- またスマートフォンの高性能化を背景に、ディスプレイ・ドライバーIC (DDI) やCMOSイメージセンサ (CIS) の高機能化が促進されたことで、これら品種の試験需要が大きく伸び、受注高の増加に寄与しました。
- メモリ・テストもデータセンターやゲーム機関連を中心に、受注が増加しました。
- 地域別では、2020年度は中国が最大の受注の仕向地となっています。
- 半導体国産化推進を受けた中国半導体メーカーの投資増を背景に、中国でSoCテスト、メモリ・テストともに需要が伸びました。
- 一方で2019年度の最大仕向地である台湾では、米中対立の先鋭化に伴い、顧客が投資に一時慎重になったことから受注が減少しています。
- 韓国ではメモリ関連の受注が増えました。

FY20売上実績 年度比較

<事業別売上>



<地域別売上>



○ 2020年度の売上高実績

- こちらは年度売上実績です。
- サービス他がEssai社の連結効果に加え、システムレベル・テスト事業が全般的に好調に推移し、大幅増収となりました。
- 地域別では、受注と同じく、売上においても中国が最大仕向地となりました。

四半期業績推移

(億円)

	FY19				FY20								
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		前期比		前年同期比	
								予想	実績	増減額	増減率	増減額	増減率
受注高	659	583	729	907	615	641	951	893	1,099	+149	+15.7%	+192	+21.2%
売上高	662	716	699	682	667	774	781	828	906	+125	+16.1%	+224	+32.8%
売上総利益	394	410	394	367	380	416	402	-	485	+83	+20.6%	+118	+32.0%
売上総利益率	59.5%	57.3%	56.4%	53.8%	56.9%	53.9%	51.5%	-	53.5%	+2.0pts		-0.3pts	
営業利益	152	177	142	116	135	174	153	208	245	+93	+61.1%	+130	+112.0%
営業利益率	22.9%	24.8%	20.4%	17.0%	20.2%	22.6%	19.5%	25.1%	27.1%	+7.6pts		+10.1pts	
税引前四半期利益	149	184	145	108	129	164	139	208	264	+126	+91.0%	+156	+144.5%
四半期利益	121	147	119	148	106	139	120	250	333	+212	+176.6%	+184	+124.5%
四半期利益率	18.3%	20.5%	17.1%	21.7%	15.8%	18.0%	15.4%	30.2%	36.7%	+21.3pts		+15.0pts	
M&Aに伴う受注残の増加				+42									
受注残	746	613	643	910	857	725	895	960	1,088	+193	+21.6%	+178	+19.6%
為替レート	1米ドル 1ユーロ	111円 125円	108円 121円	108円 121円	110円 118円	107円 123円	105円 124円	105円 125円	104円 127円	1円 円高 3円 円安		6円 円高 6円 円安	

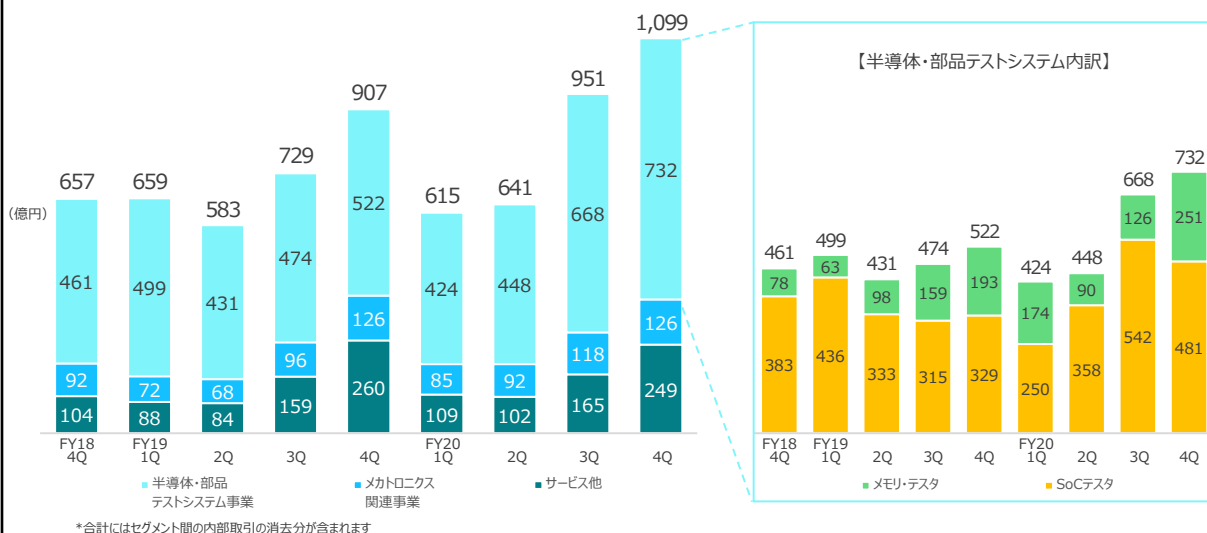
8 | ADVANTEST

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

○ 2020年度第4四半期の業績概要

- スマートフォン高性能化および昨今の半導体不足の環境を受け、受注高、売上高が想定以上に伸び、過去最高の四半期受注高、売上高になりました。
- 4Qの営業利益にはドイツ子会社での年金制度の見直しに伴う利益およそ56億円が含まれます。
- 先述した通り、4Qの税金費用には、繰延税金資産およそ100億円を計上しています。

四半期受注高 事業セグメント別



○ 2020年度第4四半期の事業別受注高

○ 半導体・部品テストシステム事業

- 前期比 9.5%増 732億円
- SoCテストは、前期比61億円減の481億円でした。DDI向けで3Qの受注急増からの反動減がありましたが、アナログ半導体向けの伸びもあり高水準な受注高となりました。
- メモリ・テストはDRAM、フラッシュメモリ向けともに需要が伸び、前期比125億円増の251億円でした。
- 1Q、2Qとコロナウイルス感染症拡大および米中対立といった要因による需要調整の影響がありましたが、3Q、4Qは事業環境が好転したことで、テスト需要も急回復しました。

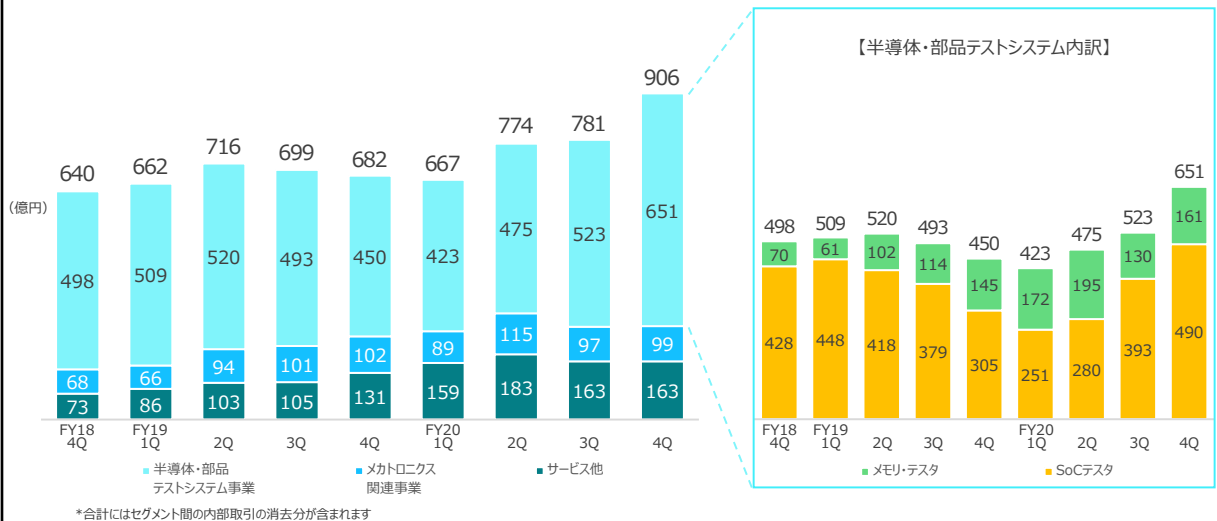
○ メカトロニクス関連事業

- 前期比 5.5%増 126億円

○ サービス他

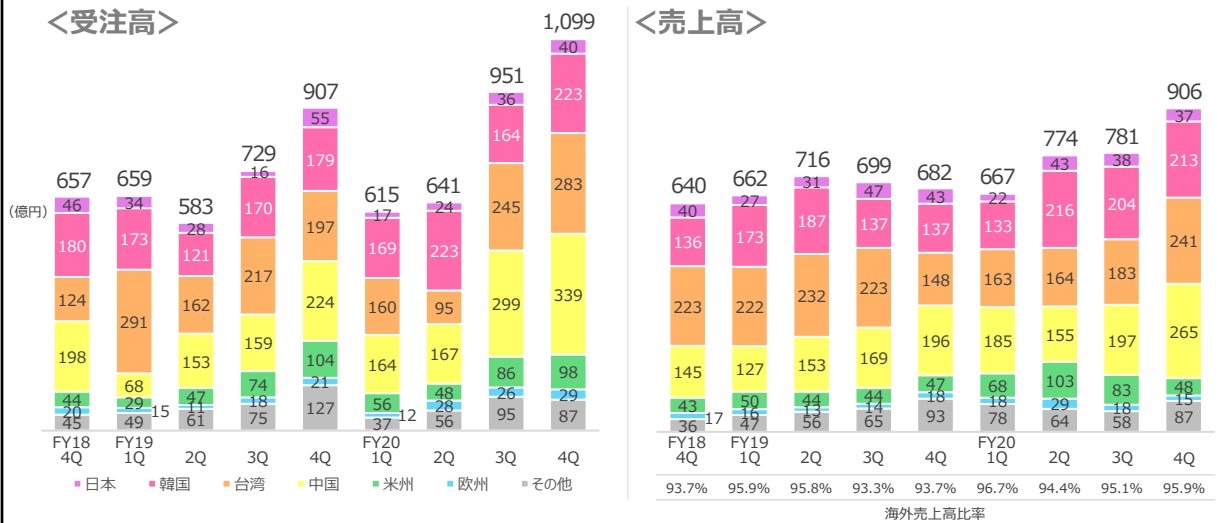
- 前期比 50.4%増 249億円
- 年間保守契約の季節性の増加に加え、システムレベル・テスト (SLT) 関連の受注も好調でした。

四半期売上高 事業セグメント別



- 2020年度第4四半期の事業別売上高
- 半導体・部品テストシステム事業
 - ・ 前期比 24.8%増 651億円
 - ・ 内訳としては、SoCテストが490億円、メモリ・テストは161億円でした。
 - ・ SoCテストは、DDIをはじめとしたモバイル関連に加え、車載・産業機器・民生関連のアナログ半導体向けも増収となりました。
 - ・ メモリ・テストは、受注同様に、DRAM、フラッシュメモリ向けともに伸びました。
- メカトロニクス関連事業
 - ・ 前期並み 99億円
- サービス他
 - ・ 前期同額 163億円

四半期受注高/売上高 地域(出荷先)別



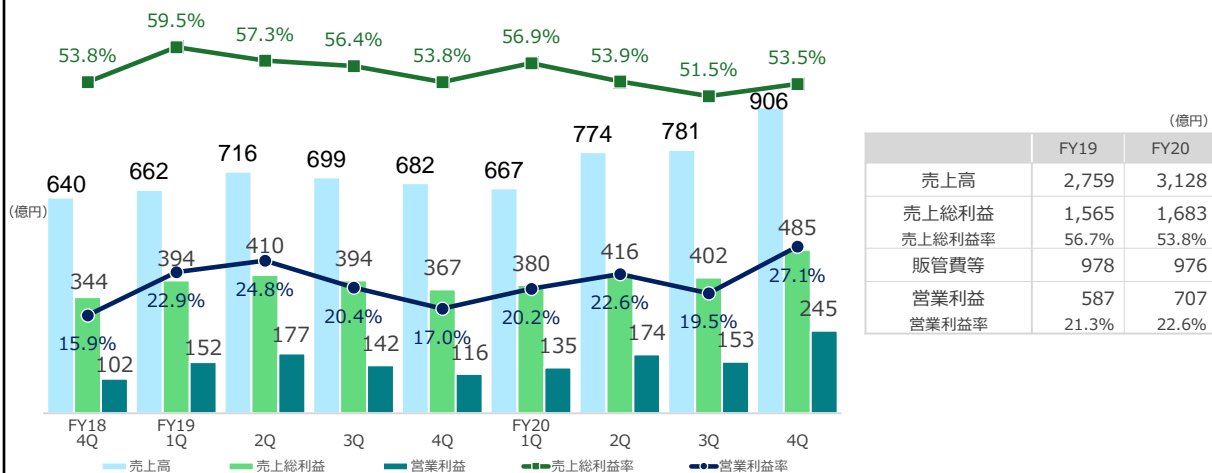
○ 2020年度第4四半期の地域別受注高

- 韓国
DRAM、不揮発性メモリ向けともに、メモリ・テストの受注が増加しました。
- 中国
3Qに伸びたDDI向けは反動減しましたが、その他分野向けのSoCテスト受注が堅調でした。メモリ・テストの受注も増加しました。
- 台湾
こちらもDDI向けが減少しましたが、アプリケーション・プロセッサ (APU) 向けの受注復調や、サービス事業における年間保守契約の増加により、受注が増加しました。

○ 2020年度第4四半期の地域別売上高

- 中国、台湾
3Qに増加したDDI向け受注残の売上計上が進みました。

売上高/売上総利益/営業利益



○ 2020年度第4四半期の営業利益

- 売上総利益率 53.5%
前期と比べて好採算品の売上構成比が上がったことで、売上総利益率が改善しました。
- 販管費（およびその他収益、費用を合算） 240億円
ドイツ子会社での年金制度見直しに伴う利益およそ56億円を4Qに計上しています。それを控除した実質の費用としては、年度末ということもあり増加しています。
- 営業利益 245億円
- 営業利益率 27.1%

○ 2020年度通期の営業利益

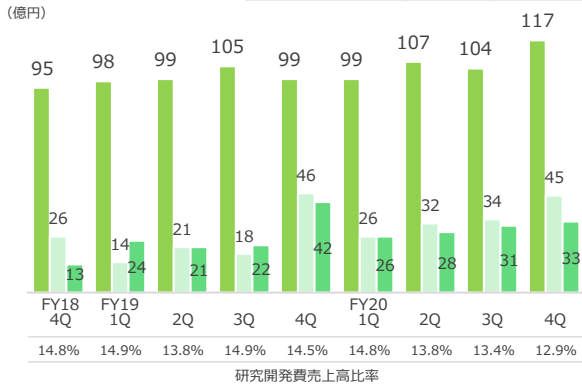
- 通期営業利益 前年度比 20.5%増 707億円
- 2020年度の営業利益には、先述のドイツ子会社での年金制度の見直しに伴う利益と、2Qに計上したプローブ・カード事業譲渡益、合計して約81億円の一過性の利益が含まれています。
- それらの「その他収益・費用」を除いた、いわゆるコア営業利益率は、2020年度は20%でした。
- 増収する中で実質的には営業利益率を落としていることとなります。その理由としては、米中対立に伴うスマートフォン関連ビジネスの悪化を受けて、売上総利益率の低下があったこと。また、研究開発費などについて、先を見据えて戦略的に積み増しを行ったことによるものです。

投資等/キャッシュ・フロー

<投資等>

- 研究開発費
- 設備投資
- 減価償却費

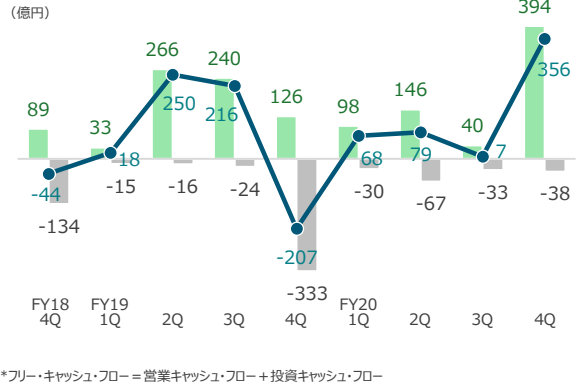
	FY19	FY20
研究開発費	401	427
売上高比率	14.5%	13.6%
設備投資	99	137
減価償却費	109	118



<キャッシュ・フロー>

- 営業キャッシュ・フロー
- 投資キャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー

	FY19	FY20
営業キャッシュ・フロー	665	678
投資キャッシュ・フロー	-388	-168
フリー・キャッシュ・フロー	277	510



○ 2020年度第4四半期の研究開発費等

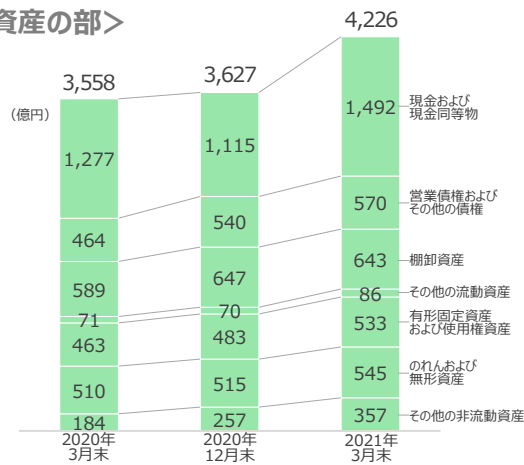
- 研究開発費 117億円
- 研究開発費売上高比率 12.9%
- 設備投資 45億円
- 減価償却費 33億円
- 年度末ということもあり、4Qは研究開発費や設備投資が強めに出了ました。

○ 2020年度第4四半期のキャッシュ・フローの状況

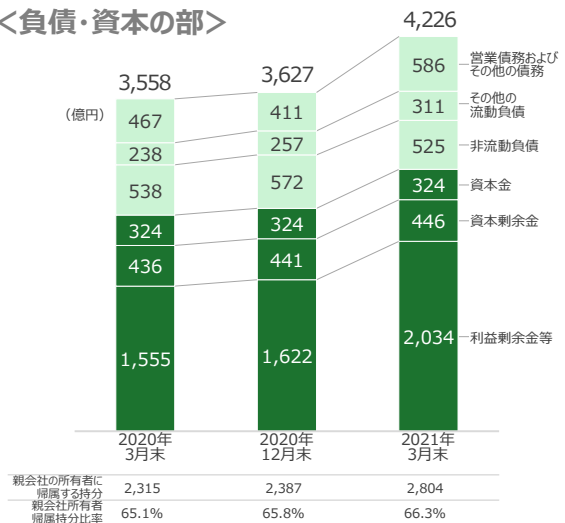
- フリー・キャッシュ・フロー 356億円
- 4Qは営業債権の回収が進み、営業キャッシュ・フローが大きく伸びました。

連結財政状態

<資産の部>



<負債・資本の部>



○ 2021年3月末時点のバランス・シート

- 総資産 4,226億円
- 現金および現金同等物 前年度末比215億円増 1,492億円
- 親会社の所有者に帰属する持分 2,804億円
- 親会社所有者帰属持分比率 前年度末比1.2ポイント増 66.3%
- 2020年度は資本効率改善を主目的に、総額131億円、総数249万株の自己株式の取得を実施しましたが、業績の伸びにより、自己資本と現預金が年度末に増加しました。今後も成長投資と資本効率性のバランスを考え、BSマネジメントに取り組んでいきます。



中期経営計画の結果と2021年度事業見通し

代表取締役 兼 執行役員社長 吉田 芳明

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ADVANTEST[®]

当社の中長期経営方針

「グランドデザイン」(中長期経営方針・FY18-27)

<長期経営目標>

「売上高3,000億円～4,000億円の達成」

- 成長分野へのフォーカス、顧客とのパートナーシップ強化でシェアを年1%ペースで改善 (CY17実績:36%→CY27目標:46%)
- 新規事業として、現在のコアビジネスの周辺分野の開拓

<コスト、利益構造>

- 売上成長を目指すにあたり、コスト構造のバランスにも配慮

	3,000億円レベルでの コスト構造モデル
売上高	3,000億円
売上原価率	46%
売上高販管費比率	32%
(うちR&D費比率)	13%
営業利益率	22%

中期経営計画(FY18-20)

- 製品需要の年ごとのアップダウンは避けられないため、3カ年平均で数値目標を設定
- 新たなテスト需要に卓越したソリューションを提供し、売上高と市場シェアを伸長
- 中長期の売上成長に向け、積極的なR&D投資・M&A
- 半期連結配当性向30%を基本としつつ、成長投資見通しを勘案した上で総株主還元を機動的に検討

	中期経営計画 (FY18-20 平均)	
	保守的シナリオ	ベース・シナリオ
半導体試験装置市場 成長率	年0%	年4%
売上高	2,300億円	2,500億円
営業利益率	15%	17%
ROE	15%	18%
1株当たり当期利益(EPS)	135円	170円

○ 当社の経営方針

- ・ 当社の中長期経営方針に関して振り返ります。
- ・ 2018年4月に、当社は中長期的にどうありたいか、何をなすべきかを定めた、2018年度を起点とする10年間の中長期経営方針「グランドデザイン」と3年間の第1期中期経営計画を策定し、全社一丸となり取り組んできました。

中期経営計画の結果

	FY15-17 平均	中期経営計画 (FY18-FY20 平均)		ベース・シナリオを大きく上回る実績を達成			
		保守的シナリオ	ベース・シナリオ	FY18実績	FY19実績	FY20実績	FY18-20 平均実績
売上高	1,751億円	2,300億円	2,500億円	2,825億円	2,759億円	3,128億円	2,904億円
営業利益率	9%	15%	17%	22.9%	21.3%	22.6%	22.3%
ROE	12%	15%	18%	35.3%	24.9%	27.3%	29.1%
1株当たり当期利益 (EPS)	74円	135円	170円	302円	270円	354円	309円

- デジタル革命の進展により半導体市場、半導体テスト市場が拡大する中で、想定より早いシェアゲイン（CY17 全体シェア36%に対し、CY18-20平均は50%）
- グランドデザイン・ビジョンに沿って行った事業拡大、2件のM&Aを行ったSLTビジネスが想定以上に成長し、早期に売上・利益に貢献

○ 中期経営計画の結果

- 2018年度から3年間の中期経営計画の結果です。
- スライド右手に整理したように、3年前にベース・シナリオとして掲げた経営指標を、大きく上回る業績を達成することができました。
- 要因は大きく2つと考えています。
- 1つ目はデジタル革命の進展により半導体市場、半導体テスト市場が拡大する中で、想定より早くシェアゲインできた事です。
- 地道に進めてきた顧客基盤強化策と、製品戦略が功を奏し、当社の強いスマートフォン関連、HPC、またメモリのテスト需要が拡大するのに伴い、それらに関連する売上をいち早く伸ばすことができました。CY17の当社シェアは36%でしたが、前中計期間中の当社の平均シェアは、約50%に到達しました。
- 2つ目はグランドデザインのビジョンに沿って行った事業拡大、具体的には2件のM&Aを行ったSLTビジネスが、半導体の高性能化を背景に想定以上に成長し、早期に売上・利益に貢献したことです。
- これら過去3年間の中計の総括、2021年度からの新中期経営計画については、来月に改めてご報告させていただく予定です。

半導体テスト市場の動向 <21年4月時点の見方>

CY20実績

- SoCテスト市場：HPC向けでの堅調なテスト需要に加え、スマートフォンメーカーの競争が広範囲なアプリケーションでテスト需要を喚起
- メモリ・テスト市場：データセンターやゲーム機関連を中心とした需要の立ち上がり、中国メモリ投資の拡大で、市場規模拡大

CY21予想

- SoCテスト市場：先端半導体への活発な技術投資を背景に、スマートフォン関連やHPC向けを軸とした需要拡大を予想
- メモリ・テスト市場：微細化、多層化、高速化/広帯域化などの技術投資の進展がテスト需要を牽引

	CY20実績	CY21推定
SoCテスト市場	約\$3,000M (1月時点推定: 約\$2,800M)	約\$3,400M~ (1月時点推定: 約\$2,800M-3,000M)
メモリ・テスト市場	約\$1,200M (1月時点推定: 約\$1,100M)	約\$1,300M~ (1月時点推定: 約\$1,100M-1,300M)

○ テスタ市場の見方

- CY20のテスト市場は、精査の結果、SoCテストは約\$3,000M、メモリ・テストは約\$1,200Mと、CY19に比べかなり成長した1年となりました。
- 全体の市場シェアについては、当社はCY18、CY19と、50%を超えるシェアを獲得してきましたが、CY20は43%程度にとどまったと見ています。
- テスタ市場は一部の大手半導体メーカーの投資動向が市場シェアを大きく左右する構造にあります。CY20は、競合のシェアが高い米国メーカー関連のテスト需要が大規模になった一方で、当社は米中対立に端を発した需要調整の影響を受けました。その結果、CY20のSoCテストのシェアは、前年比17ポイント減の38%程度となったとみています。
- メモリ・テストの方は、前年から1ポイント増えた56%と、これまでの高シェアを維持しました。
- CY21のSoCテスト市場については、先端プロセス採用品が増加する5GスマートフォンやHPC、高機能化が進むディスプレイ・ドライバICを中心に、市場見通しを一段引き上げます。自動車向けなどアナログ半導体関連の需要も伸びており、市場規模はさらに増加する可能性もあります。
- 当社の得意な5GやHPC関連の伸びが見込まれているなか、CY21はSoCテストのシェア回復が期待できます。
- メモリ・テスト市場の方は、CY20にかなり活況であったことを踏まえ、SoCテストほどの伸びは見込んでいませんが、微細化、高速化といった技術の進展が、引き続きテスト需要を拡大すると予想しています。そうした中、こちらもシェアを伸ばしていける可能性をみています。

FY21業績予想

	FY20 実績	FY21 予想	(億円)	
			前年度比	
			増減額	増減率
受注高	3,306	3,500	+194	+5.9%
売上高*1	3,128	3,500	+372	+11.9%
営業利益	707	850	+143	+20.2%
営業利益率	22.6%	24.3%	+1.7pts	
税引前利益	696	850	+154	+22.1%
当期利益	698	640	-58	-8.3%
当期利益率	22.3%	18.3%	-4.0pts	
受注残	1,088	1,088	-	-
研究開発費	427	460	+33	+7.7%
設備投資	137	150	+13	+9.5%
減価償却費	118	135	+17	+14.4%
為替レート*2	1米ドル	106円	105円	1円 円高
	1ユーロ	123円	130円	7円 円安

*1: 合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

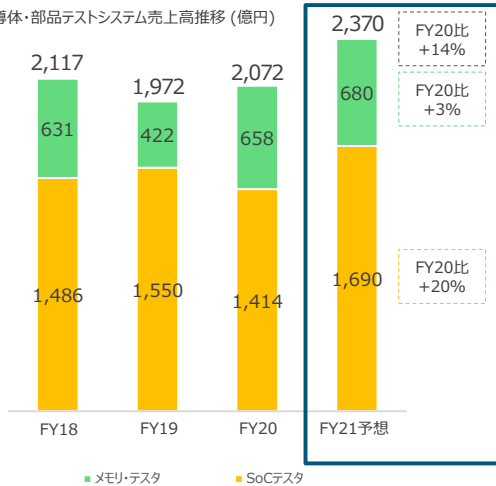
*2: 為替レート変動が今後の営業利益に与える影響の最新見直しは、対米ドルが1円安時+8億円です。対ユーロは-1.5億円です

○ 2021年度の業績予想

- 2021年度は、受注高3,500億円、売上高3,500億円、営業利益850億円、税引前利益850億円、当期利益640億円と予想しています。
- 通期の売上総利益率は、製品ミックスの良化で、約55%を想定しています。
- 前中計期間中の実効税率は繰越欠損金による減税効果で低水準でしたが、2020年度で繰越欠損金の残高は無くなりました。そのため2021年度の実効税率は約25%で見込んでおります。
- 結果としまして、2021年度は増収減益の予想となります。しかし2020年度の約100億円の繰延税金資産の計上、およびドイツ子会社での年金制度の見直しに伴う一時的な利益などを考慮すると、実質的には、2021年度も増収増益の見通しとなります。
- 予想の前提とした為替レートは、米ドルが105円、ユーロが130円です。

FY21見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム売上高推移（億円）



半導体・部品テストシステム事業

<SoCテスト>

–スマートフォンプレーヤー間の競争が、アプリケーション・プロセッサの先端プロセス移行や有機ELディスプレイ(OLED)採用を促し、テスト需要の伸びを牽引

<メモリ・テスト>

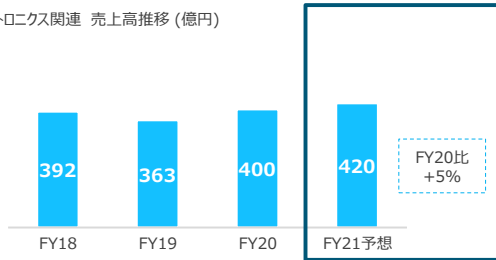
–顧客の微細化、多層化などの技術投資は21年も継続、高水準な需要の持続を見込む

○ 半導体・部品テストシステム事業の今期見通し

- SoCテストの2021年度通期売上予想を、1,690億円とします。
- スマートフォン関連でテスト投資が足元活発に動いており、1Qも良好な環境が続く見通しです。
- APU、HPCなど、先端SoC半導体では、CY21も先端プロセスの採用が進みます。半導体の複雑化や製造難易度の上昇がテスト需要を押し上げる局面が、年間を通じて継続する見込みです。
- 加えて、車載・産機・民生セグメントでは、CISの高画素化、有機ELディスプレイ(OLED)の採用など、テストの複雑化、高度化がテスト需要を牽引する構図が継続します。
- メモリテストの2021年度通期売上予想は、680億円とします。
- 市場見通しでご説明したとおり、業界ではメモリの微細化、大容量化、高速化/広帯域化といった技術投資が進展しています。
- 加えて各メモリメーカーの増産意欲も前向きで、DRAM、NANDともに当社テストへの堅調な引き合いを見込んでいます。

FY21見通し（事業別）

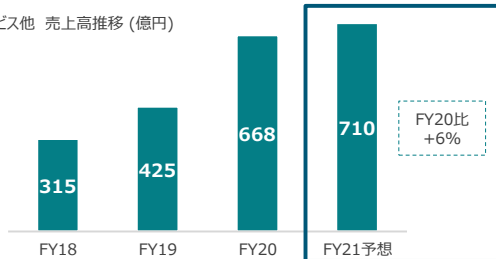
メカトロニクス関連 売上高推移（億円）



メカトロニクス関連事業

- メモリ・テスト事業と連動し、高水準なインターフェース製品の需要継続を期待

サービス他 売上高推移（億円）



サービス他事業

- システムレベル・テスト事業ではSoC関連での堅調な需要を見込む
- フィールド・サービス事業も設置台数の増加で底堅く推移

○ メカトロニクス関連、サービス他事業の今期見通し

- メカトロニクス関連事業については、メモリ・テスト事業と連動し、高水準なインターフェース製品の需要継続を見込み、2021年度通期売上予想を420億円とします。
- サービス他事業については、2021年度通期売上予想を710億円とします。システムレベル・テスト事業の堅調な伸びと、サービス保守事業の底堅い需要増を見込んでいます。

FY21の主要施策

- 高性能かつ高い信頼性を求められる半導体の増加がテスト需要を中長期にわたり拡大する中、高付加価値な半導体試験ソリューションの開発、システム/モジュール・レベルでのテスト・ソリューション分野の深耕を推進
- 足元の高水準な受注や今後の需要拡大に対応するため生産・サポート体制を整備
- The Advantest Wayの浸透や人財開発を通じ、グローバルレベルでオペレーショナルエクセレンスの基盤を強化
- ESG経営の高度化を継続
- 今年度から始まる新中期経営計画については、来月説明会を実施

○ 2021年度の主要施策

- 最後に今年度の施策について少し触れて、締めくくりとさせていただきます。
- 当社の経営理念は「先端技術を先端で支える」です。顧客の先端半導体技術開発を先端のテスト技術で、顧客に密着して支えていく、顧客に訴求するソリューションの開発が、当社の将来の収益の源泉です。今後、高性能で、信頼性の高い半導体の生産拡大がますます進みます。その潮流にしっかり応える半導体テストを、そしてシステムレベルのテスト・ソリューションを世に送り出し続けることを、R&Dと営業活動の重点におきます。
- 2021年は、半導体市場も半導体テスト市場も明るい年となりそうです。一方、世界経済の変調、経済安全保障が引き起こすサプライチェーンや市場の混乱、といった、マクロ的なリスクへの目配りが欠かせないと考えています。
- 高水準な受注残があるなか、部材の調達、生産に対しては前広に対応しておりますが、リスクが顕在化しないよう対処してまいります。
- 開発も、生産も、社員の力あってのことですので、今年度はESG経営の一環として人財教育に力を入れたいと考えています。当然、企業の成長の根幹をなすガバナンスも、一層の高度化を進めます。
- 最後に、2018年から3年間の中期経営計画が成功裡に終わり、新たなスタートを切りました。本日は2020年度の決算、2021年度の見通しを説明させていただきましたが、今後3年の中期経営計画につきましては、来月説明会を開催させて頂く予定です。その中で、資本政策や株主還元方針の見直しについても触れる予定です。
- 私からは以上です。本日はありがとうございました。